

自分の見た馬や愛玩動物や、鳥や、花や、野生動物等に就て手紙を書いたりする時間ももつたのだろうか？それに對しては唯だ彼かれが子供達を愛し子供達の自發的な自由な生活を心から樂しんだからであると答へるほかない。彼の手紙は讀む者として、彼自身は子供の遊戯や、計劃等には參加することなくして單なる責任感や子供に對して助言を與へようと願ふ親の一面から出たものの如くに感せしめるが事實はそうではなくて彼は心ら子供を樂んだのである。彼は

ルースベルトは斯種の人々とは全くその型を異にしてゐた。彼は子供と同じものの見方をすることが出来、そして子供達自身がその遊戯や冒險を樂むと同じにこゝを樂むことが出来た。斯のやうに彼は子供になりきることが出来たので、子供達

【朝】味噌汁	かぶ	いん
げん豆	小付	竹の
子	ふくめ煮	
干瓢	鱈の子	
ふくめ	小井	
【晩】親子丼	鳥肉	三葉
清汁		

ルーズヴェルトの書翰を
読むのは、彼れを以て遊
戯に割込み、子供の愛玩
動物の習慣や、特徴に精
通し、そして大統領として
の日常経験を子供達へ
書いてやること以外に何一つする仕事をも
たなかつた人かのやうに
思ひ込んで仕舞ふだらう
……何うしてルーズヴェ
ルトは我が子の遊び友達
となつたり、家を離れて

兩親に贈る言葉
(2)

五八月日新門母子方家常刊

支便一部金益錢一ヶ月全五拾錢郵稅五厘
廣告料五錢十
印刷所 日臨祭日の翌日休刊
發行會社人印個人川崎文治
圖書局石井新平町河原町三五
漫畫所 常磐毎日新聞社
書店六三〇番
印刷所 每日印刷株式會社

閣僚の一人とテニスを樂しみ、登山家と獅子狩をするなどを樂んだと同様に男の子の一人とまくら合戦をすることを心からほんとに楽しんだのである。多くの父親達は兒童の自發性と新鮮味とを十分に鑑識する事が出来ない。左様な人間は子供になりきることも出來なければ、子供を楽しむことも出來ない。彼らは餘りこち／＼の成人の生活様式に釘づけにされて仕舞つてゐるので、精神的にも筋肉的にも屈伸がきか

は喜んで彼を遊び仲間へ選ぶのであつた、彼はまだ義務の念からして止なく参加する路傍の人ではなかつた。彼は常に群衆中の白眉の一人で、椅子の上を轉げ越へたり納戸の乾草に攀ぢ登つたり、また仲間の誰よりも勇気に且つ愉快に泥濘の中をやぐ渡る事が出来ただからして彼の子供達も、また他の子供達も、外の誰を仲間にするよりは必ずルーズヴエルトに遊びの仲間入りをして貰ひ度かつたのである。

皆様の足?
尼子タクシ一へも豆タクが入りました
御立關から立關へ 迅速簡便
是非御利用を

內科 小兒科 桂柳病科
藤沼院 腹西院

平町紺屋町 電話五〇七番

市内三〇錢引
宮行流線型セダン
大型貸切バス
直通は二丁目尼子自動車部より
發車いたします

科外 專光 門線 科上田外科醫院 平町南町 電話二二九番

・ 黒 小 倉	1.20	ヨリ
・ ハ (特製)	2.30	ヨリ
・ 紺セル 金釦服	3.60	ヨリ
・ 紺セル K O型	4.00	ヨリ
・ 第二・第三・制服	3.60	ヨリ
・ 紺セルセーラー	2.60	ヨリ
・ 防水マント	1.20	ヨリ
・ ハ (裕)	1.65	ヨリ

平三 あかや洋服店 電203

一年に十七萬圓を

甘黨がパクリ！

▽平町の菓子製造高
この外に他地からも入荷

その他生産

麵類も多い

等に叙せられた平檢事局監督書記黒澤清民宛今八日動記が傳達された

最盛期は十五日頃

平郵便局の二月中に於ける電話料徵收成績は總數六百三十九名の加入者が全部納期迄に完納したので仙臺遞信局管内廿一の一二等局中完納局は左記十一局である

田花代 木田敏子 鈴木キク
まつ 新妻マツノ 猪野
美代子 渡邊芳子 大木
チエ 篠原とも 内藤つ
木村スイ 佐藤アヤ子
磯松ナツイ 緑川まつい
梁取カワヨ 鈴木キク
ま 木田キミ(福島縣)渡
邊ハワヨ 太田ハル子
小名濱 四倉 植田 湯
木 江名 勿來 豊間
泉 草野 高久
木 田 水山 高山
江名町漁業家吉田豊太氏は
今回大型漁船建造を計畫、
之が國庫補助を農林省に申
請したため同省水產局海洋
技師中村良男氏が今明日中
に來郡、實地調査を行ふこ
とに至つた、尙右は百噸弱
鋼製の計畫でこれが出来れば
先年新造した同型の一隻
を合して二隻の大型遠洋漁
船が活躍を見せる譯で期待
されてゐる

提灯と國旗



新しい ハナタネ

横濱植木會
社の特撰品です

西村屋藥局 電3

□確實敏捷は
△の生命なり

□良品廉賣に勝る商略なし

高 久 痘 院

院長 医學士 高久忠
副院長 新編醫學士 赤羽清
藥局長 藥劑師 佐竹菊雄
内科小兒科 平町田町 電話五一三番
耳鼻咽喉科 レートゲン科

新商友會が母校の新築移轉に踏ん張つて一万圓を寄附しやうとする此の金の募集委員會は昨夜午後七時からマルトモホールに開かれ募集の方法其他に就いて大いに議を練つた結果會員は一五圓以上を寄附する

黒澤監督勵記 昨年十二月七日附を以つて勵八

一口五圓以上を
會員が負擔する

平商友會の寄附募集方法

江名の漁業家計畫
左の如くである
田人五〇三七圓 永戸六
五〇〇圓 澤渡七三〇〇
圓 小川五〇〇圓 川前
三五〇〇圓

遠洋漁船を新造
本縣に僅か一隻しかない

江名の漁業家計畫

保護者會豫算 平町
小學校保護者會の豫算に關
する
島みよし 猪狩勝子 木幡架
子 佐藤マスヨ 篠原と
木田キミ子 太田キヨノ
内藤つま 鈴木まつ 佐
藤カネ 管山ミキ 寺島ミヤ
押田花代 木田敏子 木幡架
政子 渡邊芳子 木幡架
も 管山ミキ 和合
島みよし 猪狩勝子 木幡架
郡キミ子 松本つる 西

回出生

△新町四小野満義氏長男光郎さん

回死

△立町九五竹田イヂさん

(二九)

安齊外科醫院

豆石炭

コーキス

阿部石炭店

平驛前

電話三十七番

業費として縣からの割當は
十二月七日附を以つて勵八

郡下冷害町村の凶作對策事
件等を一決したが締切
は八月三十一日で二ヶ月以
内に分納も取扱つて寄附者
の便宜を圖ると

托兒講習開始 既報
縣主催の農繁期托兒所講習
會は本八日より四日間平第
三小學校に開かれ縣の照沼
出席聽講者は郡下關係者百

平駕前 電話四七五番

丸トモノの拐帶男が魔窟を徘徊中捕る

大金に唆かされて歩き廻る
△ 大半を費消し盡す

去月卅日主家より大金八百
餘圓を拐帶逃走した平町四
町目九とも食堂會計係双葉

郡大堀村生れ神田邦仁(五)
は平署で手配中七日朝東京

市向島區寺島町の魔窟玉ノ
井地内を徘徊して居た處を
舉動不審で寺島署に檢舉さ
れたが神田は水戸、日光方
面を遊び廻つて三日上京、
銀座、浅草を金の有るにま
かせて漫步してゐたもので
拐帶金は大半費消盡したと

温泉廻り

平驛團体募集

平驛は本月十六日から三泊
四日間の新潟、佐渡、伊香
保温泉廻りの團體四百名を
募集するが費用は一人十八
圓八十七錢で十六日午前九
時三十分平驛を臨時列車で
出發、磐越東西線を經て新
潟に出て上越線、兩毛線を
廻つて歸平する豫定

鮮人を煽動して

親分を袋叩

された宮城縣亘理郡山下村
渡邊春雄(七)假名は取調べ
の結果同縣伊具郡藤尾村氏
名不詳方から自轉車一臺窃

取したこと發覺

白土會の

大會番組

好間村大字上好間字南町
田三五砂利採取人小林昇
(三)弟貢(七)の兩名は去月
廿八日雇主の同村志賀宗利
(六)方に至り世話した砂利

運搬トラックの運轉手町田
武雄を使はぬのが面白くな
いと傍に居合せた同家鮮人
人夫六名を煽動して宗利を
散々殴打胸部に全治三週間
の傷害を負はせ平署に告訴
された。

既報喜多流謡曲の白土會大
會は明九日午後一時から谷
口樓に開くが番組は左の如
く番外の素謡及仕舞は午後
六時頃の豫定であると

△素謡 杜若 櫻川 雲雀山 烏
頭鞍 馬天狗

△仕舞 羽衣(菊地和子) 蝶丸
網之段(野崎貞子)

落(三井慎一郎)田村(平
山武雄)天鼓(谷口福子)

△去る三月三十日仙臺市大
橋通りから小名濱迄貸切自
動車を飛ばし料金四十圓を
支拂はぬのみが泉村旅館藤

井智吾氏方に宿泊十數圓の

宿料及び飲食費を踏倒し逃

走平署員に檢舉された仙臺

市下町六二魚商前科四犯横

山長作(五)同七番町一二六

礪山業前科五犯安齊興一

(四)に係る詐欺事件の公判

は来る十八日午前九時から

平區野木判事係り清田檢事

立會の下に開廷される

△農夫二〇五〇才迄

△鐵工業 廿二才 高卒

△トラック助手 廿四才

△事務員 十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事務員

十九才 中卒

△事

とに神經をいためては長壽
は出來ない、兎は長い耳を
しいビヨイヽと飛んで歩
く、藝も出來ずきらすを常
食としてまた菜を食べる、
不思議なことは水を呑む
と死ぬ、まことに風情のな
い獸、しかし兎は滑稽なと
ころがあるが豚は何う見て
も遲鈍で何の風情もない、
その豚がはやつたは今思ふ
と不思議です、兎は小さい
から持運ぶには便利ですが
豚は大きいから運搬にも手
數がかかる、しかし流行熱
程おそろしいものはない、
この豚の飼養所に入つて來
たは古田税と弁田新之

古「ウム、雲もなく陽が出
こ居れば好天氣だ」
主「豚が御入用でございま
すか、何うぞ且那こゝにゐ
るのを見てくださいまし、
よくこえて居りますぜ、こ
の肉はいゝ味をもつてゐま
す・御入用ならば七十兩で
賣りませう」

くは外國人の食料にするな
めのことだ、赤鬚共にこそ
を賣り込みそれにて利益
を得むとは卑しい奴だ、刀
をためすためにその豚を切
つてくれる、左様心得ろ」
イヤ驚いたは主人



（上段）
（下段）

物には流行すたりがある
江戸末期の慶應の年間に豚
が流行した、その當時一頭
について百兩出した者など
もある、明治の十年頃は兎

ひ主が出て来て
主「これは入つしやいまし
よいお天氣でござります」

古「時に主人、その豚は俺
がもらつたぞ、聞くところ
によると、これを豚つてお
には乗りません」

古田主税はチツと豚を見て
古『これ主人、おれはこの
豚のほえる聲がきらひだ。
牛はモーと節をつけてなく
そのなく聲はとんと長唄の
やうだ、それとは異り豚は
たゞブウ／＼とばかり申し
て三味線に乘らねえ』

代もつぶれます、どうぞ一
口召上つて御機嫌をなほし
てお歸りくださいまし。
古田『たまき』、酒を飲むため
にこれへ参つたではないぞ
豚の鳴き聲が耳ざはりにな
る故切つてくれる、エ、止
めるな。

にもどり、この豚の肉を焼いてこれを肴に酒を飲む、こちらは豚の飼主深川の嘉兵衛、二人のために大損害をした、したこの事を町方見きわりの同心に訴へて出でた、浪人の中には亂暴者があると聞いたが、こんな無法なものはすくなく、これらを助けておいては市民が迷惑する、早速捕縛しろ

夜胃腸性病

科科科科
門 專

松村 腸胃性病院

にゐた豚十二三頭斬つてしまふが、生れて間もなき豚の子を蓮に包みそれをさげた主税古は「主人、これは屋敷にみやげに持つて行くぞ」といひすて刀をぬぐひ鞘におさめ二人は深川をあとにして割下水の青木の屋敷に到着する。そこで古田と井田が岡つ引を縛り上げて目し物見せこくれやうと、五人打ちそろつゝ屋敷を出た。

花の春！

暗室不要 國產カメラの代表品
メイコ

和漆器・家具は
和合漆

卷三六一 雷 平新川

和久井屋